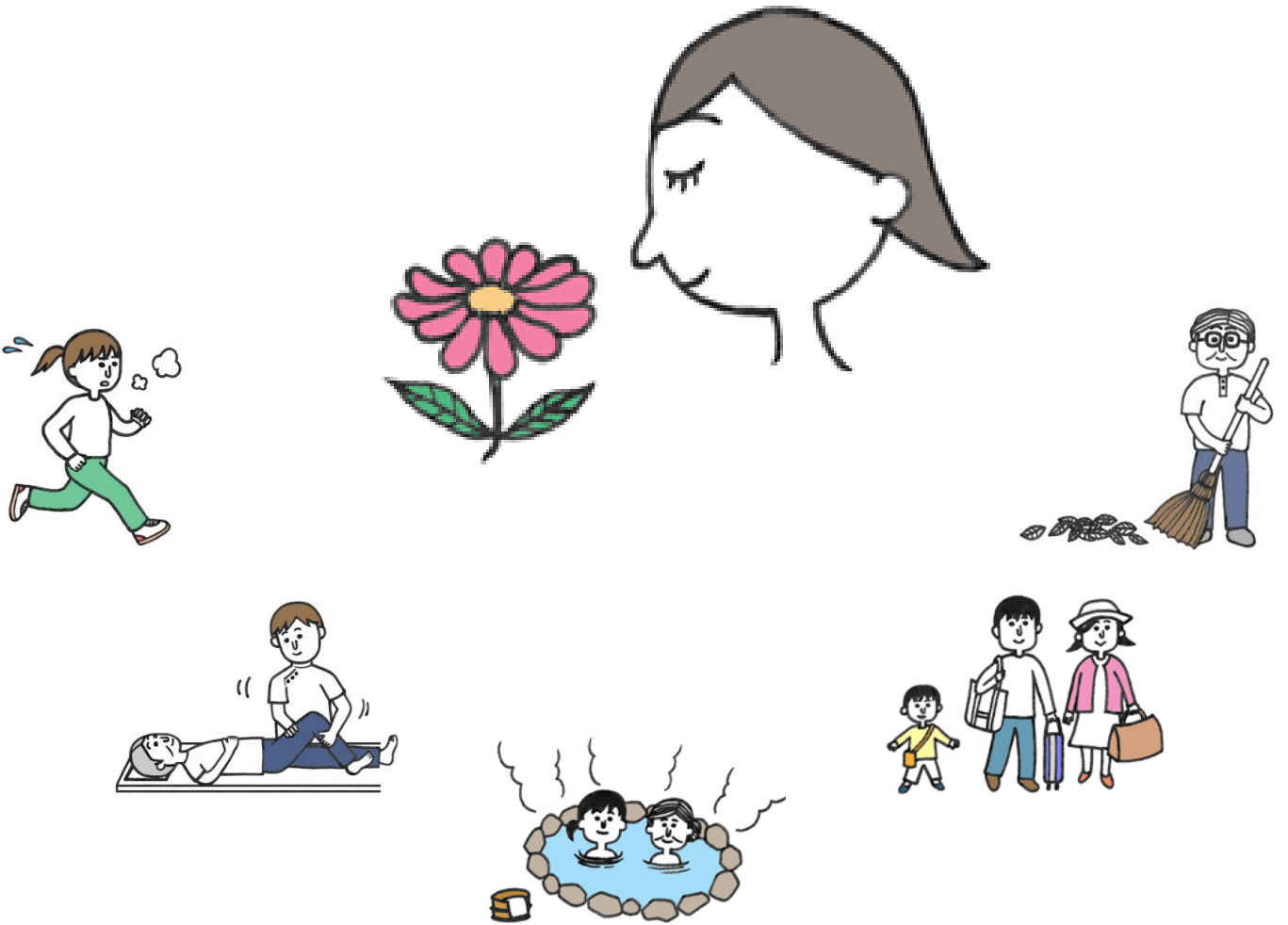


# つながる にほんご

～ かながわで とともに くらす ～

## 別冊 活動ガイド





## はじめに



この『つながる にほんご ～かながわで とともに くらす～ 別冊 活動ガイド』は『つながる にほんご ～かながわで とともに くらす～』（以下、『つながる にほんご』）を、さまざまな地域で日本語ボランティアをなさっている皆さんの活動に役立てていただくための手引きです。本冊の『つながる にほんご』を初めて手にとられた方、あるいはもうお使いになって、もっとうちの教室にあった使い方ができないかな、とお感じの方には、ぜひお読みいただきたいと思います。

ここでは、日本語ボランティアの方が実際の活動にいたるまでを、Ⅰ．活動を考える前に、Ⅱ．活動を考える、Ⅲ．活動のコツ、Ⅳ．活動案／実践例とし、それぞれの章で必要な考え方やちょっとしたスキルを掲載しました。Ⅳ章には、『つながる にほんご』本冊にある5つのテーマから、9つの話題を取り上げ、実際の活動案や実践例が載せてあります。

同じ地域で活動していても、ボランティア、学習者それぞれの属性、活動形態は多様ですから、「こうしてやればOKです」と一つの形を提示することは、おそらく誰にもできません。学習の場は、ボランティアと学習者の双方の力で作り上げるものです。そこに教室のおかれた地域の個性が反映されて、その地域につながり、さらには社会参加につながる窓口になれば、素晴らしいことです。この活動ガイドが、そのためのきっかけ作りやヒントになれば、幸いです。

2014年3月

神奈川県立国際言語文化アカデミア

---

### ◆この冊子での用語について◆

日本国籍を持っていない人を指す場合は、「**外国人**」の呼称を使用しました。日本語教室で学ぼうとする人は、国籍を問わず「**学習者**」としました。自分の日本語を提供する側で活動する人も同様に、国籍を問わず「**ボランティア**」と呼んでいます。実際の現場では支援者、進行役、教師、共同学習者等、いろいろな呼称が用いられていますが、これから参加したいという方への分りやすさから「ボランティア」を選びました。なお、「ボランティア」は必ずしも無償の活動者ではありません。

# もくじ

はじめに.....	1
I. 活動を考える前に	
1. 地域に暮らす外国人 .....	5
2. 教室を知る .....	7
3. 互いに知り合う .....	9
4. ボランティアの私自身を振り返る .....	13
コラム「共生を学ぶ場としての日本語教室」	
コラム「心がとけちゃった」	
II. 活動を考える	
1. 活動の種類とバランス .....	16
2. 教材『つながる にほんご』を使った活動	
(1) 教材『つながる にほんご』とは .....	18
(2) 活動案を立てる .....	20
コラム「私は何？—自己紹介の落とし穴」	
III. 活動のコツ	
1. 地域の特性 .....	23
2. 対話のヒント	
(1) ひらいた質問／とじた質問 .....	24
(2) 小刻み質問 .....	27
(3) 学習者が答えに困っているとき .....	30
3. 話題のヒント	
(1) 話題の見つけかた .....	32
(2) 話題の広げかた .....	35
(3) 話題の深めかた .....	38
コラム「ボランティアも“わたし”らしく」	
4. 文法の扱い .....	41
コラム「人間として、レベルアップできる日本語」	

IV. 活動案／実践例	
1. 活動案とは.....	45
2. 地域での活動例	
(1) はじめてのインタビュー活動「ふるさとは〇×です」 .....	48
(2) 地域と親しむ「街角オリエンテーリング」 .....	52
(3) 「お出かけ計画」学習者主導の活動へつなげる .....	57
(4) 「健康」テーマを積み重ねたシニアのための日本語活動.....	58
(5) 「民間療法」異文化の知恵を学ぶ .....	67
コラム「“先生”ですか、それとも・・・」	
(6) 「どんな子ども」活動案通りでなくても収穫を .....	70
(7) 「小学生のころ」教室丸ごとで活動しよう .....	72
(8) 「大変！電車が動かない」読み書きを取り入れて .....	77
(9) 「地震ワークショップ」複数の団体が連携して.....	83
3. 活動案や教材類の共有 .....	86
おわりに.....	87